

学 位 論 文 要 旨

氏 名 王 佳穎

題 目 中国の高校日本語科における日本語教育の授業改善に関する実践的研究

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

1. 研究の目的と方法

本研究は、中国の高校日本語科教育において学習者の主体的な学習を促す実践課題に取り組むために、学習者の授業における周縁化の原因を検討し、それを踏まえた授業構成原理を明らかにし、授業モデルを作成することを目的とした。

2. 研究の概要

第1章では、本研究の背景や目的について述べた。まず、中国の高校日本語学科の日本語教育の現状および実践的課題をまとめた。加えて、アイデンティティの視点から授業改善の必要性を検討した。その上で、本研究の目的と方法を提示した。

第2章では、主体性を尊重した外国語学習を図る授業構成に関する実践的課題を先行研究に基づいて検討した。正統的周辺参加論から見れば、言語学習の主体性は、学習に関わる実践共同体における正統性と周辺性に依存し、外国語授業で興味関心があるにもかかわらず学習意欲が低下するという状況は、社会・文化の内容学習により周縁的参加を支える授業方略がかえって学習者の正統性を失わせ、周縁化を助長したことに起因すると考えられる。さらに、主体的な参加を図る外国語授業事例に関する先行研究を検討したうえで、授業の実践共同体において学習者の正統性を図り、自分自身の立場から意見を表出する機会の保障を主体性尊重の外国語授業開発の最重要課題として析出した。この課題に取り組み、目標言語集団に「存在する多様な視点を理解し」、目標言語話者の「意見との共通点を見つけることが可能であると認識」させる授業を開発するために、社会系教科教育で蓄積された価値観形成の研究成果を外国語教育に取り入れて、改善授業の構成原理を検討するという本研究の方向性を示した。

第3章では、日本語学習の授業において周縁化が起きる原因を検討するために、中国高校日本語科の日本語に関する知識重視の授業と、自国と他国の社会・文化の内容を題材とした授業とにおける学習者の学習過程の比較を行った。その結果、知識偏重の授業では、インフォメーション・ギャップの生成により学力の非対称関係が構築された。このような関係のもとで、学力が比較的に低い生徒が自分への評価を維持するために沈黙し、周縁化したと考えられた。一

方、社会・文化の内容学習を行う授業では、学力の非対称関係が存在しているが、将来目標言語集団へ参加するのに向けて、他の成員と平等で支え合っている関係において発言したことが確認できた。これにより、本研究の第1の課題であった、学習者が自分自身の立場から意見を表出する機会が保障されうる社会・文化の内容を取り上げた、授業構成の必要性を示した。

第4章では、日本語学習者に自分の意見の表出機会を保障する授業構成を開発するために、日中両国における家族での女性の権利・役割分担に関する社会問題を取り上げ、開かれた多元的な価値観の形成を目指す授業を開発・実践した。その結果、〔日中両国における社会問題を取り上げ〕、〔日中の社会的な価値を相対化〕し、なおかつ〔相対化した社会的価値の共通点の導出〕という授業構成を開発・実践した。その上で、改善授業の構成原理として「開かれた多元的な価値観形成による発言機会保障の外国語授業モデル」の仮説を行った。

第5章では、第3の課題として、中国高校日本語科において、第4章で作られた「開かれた多元的な価値観形成による発言機会保障の外国語授業モデル」に則って、日本語の授業を開発・実施し、主体的な日本語学習への促進効果が見られたかを検証した。授業で配布したワークシート1の記述における、日本語使用の程度と記述内容から、日本社会・文化に対する意見の表出を保障することを通して日本語能力不足により周縁化する状況を改善でき、さらに日本社会・文化に対する意見表出の正統性は開かれた価値観形成を図る授業構成に支えられることを確認した。すなわち、第4章で仮説した「開かれた多元的な価値観形成による発言機会保障の外国語授業モデル」が概ね妥当であることが示された。

第6章では、各章の議論に対する総合的な考察を通して、主体的な日本語学習を促す授業構成原理として、開かれた多元的な価値観形成を図ることを通して、意見表出の正統性を保障しながら、学習者間に非対称関係を作らないことが必要であることを見出した。それに基づき、「社会・文化の内容」について「開かれた多元的な価値観形成」ができるような工夫をすることで、学習者に「自主的な思考」を促し、さらに「自分自身の立場から」価値観を作り表明する環境を作ることにより「自発的に発言」することを促すといった展開からなる「開かれた多元的な価値観形成による発言機会保障の外国語授業モデル」を提起した。

### 3. 研究の成果

本研究の成果は以下の2点である。第1に、主体的な日本語学習を促す授業構成原理として、開かれた多元的な価値観形成を図ることを通して、意見表出の正統性を保障しながら、学習者間に非対称関係を作らないことが必要であることを見出した。第2に、授業構成原理を具体化するために、「開かれた多元的な価値観形成による発言機会保障の外国語授業モデル」という主体性を尊重する授業の展開モデルを示すことができた。